

猪苗代湖及び裏磐梯湖沼水環境保全推進計画（案）に対する委員事前意見と対応

資料 2 - 4

No.	資料	該当頁	意見等	意見等への対応	委員	担当課
1	2-3	8	<p>図2 猪苗代湖の水質（全窒素及び全りん）の経年変化では全窒素濃度が平成28年より連続して低下し、平成30年より2年連続して目標値をクリアできたことは、成果としてもっとアピールするとともに、COD濃度増加の原因が窒素、りん等の栄養塩ではない可能性が出てきたことを今後、検討する必要があります。全窒素濃度の目標値がクリアできた要因は、生活排水対策の効果であり、この良い傾向を促進するためにも、引き続き対策を継続する必要がありますことは変わりありません。</p>	<p>ご指摘のとおり、長期的な視点で見ると、生活排水対策等により、全窒素や全りんについて水質が改善しており、引き続き、流域住民等に対して普及啓発を継続していきます。また、COD濃度増加の原因と窒素・りんの関係性については、湖内循環や物質収支等の調査・研究を継続してまいります。</p>	中野和典 委員	水・大気 環境課
2	2-3	13-14	<p>毘沙門沼のpH、COD、全りん、全窒素の上昇が他に比べて顕著ですが、猪苗代湖のような具体的対策はないように思います。観光資源としては大きな影響を持っていますので、ご検討ください。</p>	<p>毘沙門沼の水質の変化については、原因究明するとともに、水質が改善されるよう対策を検討してまいります。</p>	渡邊明 委員	水・大気 環境課
3	2-3	16	<p>猪苗代湖のCOD達成期間イに区分されています。直ちに達成できるのであれば目標値を下げる必要はないように思います。また、ロについても5年以内に達成できるのであれば、令和12年度の目標値との関係が不明確になります。ご検討をください。達成期間をここで記載する必要がありますでしょうか。</p>	<p>ご指摘の表については、環境基本法に基づき、現在類型をあてはめている水質環境基準を記載しております。 水質環境基準とは別に、計画期間中において達成すべき水質保全目標を定めています。</p>	渡邊明 委員	水・大気 環境課
4	2-3	26	<p>この図は外側で時計回り、湖心で反時計周りの循環があることを示しているのでしょうか。例示であっても具体的な予測モデルの図を示した方が誤解はないと思います。</p>	<p>本図は猪苗代湖における流動予測モデルの研究結果として、猪苗代湖の水流がほとんどの期間において、時計回りである一方で、夏季のわずかな期間において、反時計回りであることが解明されたことを示すものです。図に注釈を追記します。</p>	渡邊明 委員	水・大気 環境課
5	2-3	32	<p>目標達成のためのフローチャートで進行管理の図ではありません。PDCAサイクルに沿って、施策の見直ができるよう図示してください。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、進行管理について、PDCAサイクルに沿った記載に修正し、図示します。また、水環境保全基本計画においてご指摘頂いた年度毎の進行管理についても併せて明記します。</p>	渡邊明 委員	水・大気 環境課